

医療機関の新規開設（開設者変更含む）や増床にかかる説明資料

社会福祉法人 錦江舎
理事長 山本 玲子

1 概要（令和元年8月時点）

病院名	（仮称）夢眠 可児医療療育センター
所在地	可児市土田大尻 626 番地
開設者名	社会福祉法人 錦江舎
管理者名	深見 光樹
時期	令和4年4月

2 機能別病床数・病床利用率（令和元年8月時点）

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床等	合計	病床利用率
現在	0	0	0	0	-	0	-
変更後	0	0	0	205	-	205	-

3 新たに整備される病床の整備計画と将来の病床数の必要量との関係性

医療型障害児入所施設及び療養介護施設について、岐阜県内には現在3施設200床整備されている。しかしながら、当該施設の全てが岐阜市内にあり、東濃、中濃地域は空白地帯となっている。重症心身障害児者の多くは出生時ないし出生後まもなくこうむった障害が原因となっているものの、家族がいる地域での生活を考えなくてはいけない。平成26年度小児等在宅医療連携拠点事業成果報告会における「岐阜県における在宅障がい児者の現状と在宅医療施策」によると岐阜県の重症心身障がい児者は676人おり、そのうち308人が施設入所されている。在宅介護は368人であるが、ご家族の高齢化に伴い、介護に関する負担が増すために、ほとんどの介護者が、介護が出来なくなったとき施設入所を希望している為、面会時のアクセスの良い県内での施設整備をし、県民、地域の方々に貢献できればと考えている。

4 新たに整備される病床が担う予定の病床の機能と、構想区域の必要病床数との関係性

重度障がいをもつ多くの方は自身の健康や体力に不安を抱え医療的ケアを必要としています。県内では障がい者手帳所持者119,071人（内、特定疾患医療受給者証交付者数13,246人：平成28年度末時点）重度障がい者が45%を占め平成10年度と比べ年々増加傾向となっている現状の中、岐阜県内において中濃圏域に医療型障害児者入所施設はなく重い障がいを持つ方々やご家族に安心してご利用頂ける、地域に根ざした「(仮称) 夢眠 可児医療療育センター」医療型障害児入所施設を設置し障害者福祉サービス事業として療養介護及び短期入所（空床型）を行うべく計画としている。

5 雇用計画や設備整備計画の妥当性

医療職の確保は医師を始めとし看護職員、介護職員共に重大課題となっているため開設1年半前より募集開始、医師は医局紹介・斡旋等で予定しており、看護職員はナースセンター・求人媒体・斡旋等で開始2ヶ月前までには採用の8割達成を目指していく。離職防止に向けても個別面談を有効にし計画的な充足に努め、医師を始め看護職員等は仲間を呼べる環境に努めていく。働く職員が心も身体も元気でないと良いケアは出来ないと考え、腰痛予防、身体的な負担とならない様、「ノーリフティングポリシー」の考えから移乗介護等の負担軽減を図るためリフト機器、スタンディングマシーン等介護機器の活用を図り、働く環境を見直し離職防止に努めていく。

6 その他

- ・職員教育について新規事業のため教育システムの構築を始め、それぞれの専門職が分野別で役割を担い各種研修を活用しレベルアップに努める。
- ・情報共有が重要と考えミーティングの活用を図り、ご家族に安心してご利用頂ける事業所を目指す。